

家庭菜園相談室

Q1

スナップエンドウを作っています。春になるとツルが込み合って「うどんこ病」などが発生してしまいます。どんな対策をすればよいのか教えてください。

A1

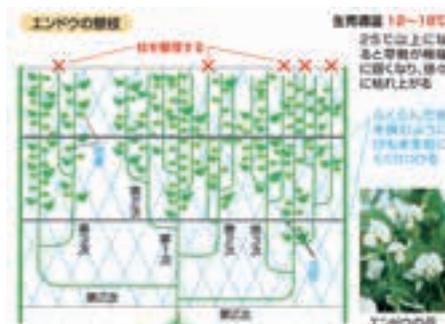
スナップエンドウは、ツルを整理しないと側枝（第2次分枝・第3次分枝）が混み合い、風通しが悪くなるため病気が発生しやすい原因となり、さらには収穫量まで減少してしまいます。節分をすぎた2月中旬の、側枝が伸び始めるときに、早い段階で側枝を整理します。

エンドウの特徴は、第1次分枝にはたくさんの花が咲き、サヤもたくさんできますが、第2次分枝・第3次分枝になるほど花の数の割にサヤができにくいものです。このため、側枝は早めに切除したいです。巻きヅルが多いため、無理に作業は行わないようにしましょう。

また、うどんこ病は、発生することが前提（当たり前）と考え、3月上旬になったら、薬剤防除をするとその後の発生が少なくなります。エンドウのサヤができる前に、予防的に早めに防除しましょう。



エンドウうどんこ病（全農 提供）



エンドウ整枝（タキイ種苗株式会社 提供）

Q2

ネギの葉に黄白色の斑点や橙黄色の小斑が着き、葉の先端から枯れてしまいます。毎年、同じような時期に病気が発生してしまいますが、どうしたら良いですか？

A2

黄白色の斑点は、「べと病」です。ネギやタマネギに発生しやすい病気です。橙黄色の小斑は、「さび病」です。

べと病は気温10～20℃で発症しやすくなりますが、さび病は低温でも、高温でも発生します。いずれも混みあった通気の悪い苗床、湿気が多い苗床で発生します。しかし、本田でも蔓延しますので、注意が必要です。苗床のうちから殺菌剤を予防的に散布しましょう。蔓延してからでは、防除は困難になります。また、病害の出始めには、発病した葉を摘み取ってから防除します。

ネギにはタマネギと同じく、葉にろう物質があるため、薬剤をはじいてしまい流れ落ちやすいので、展着剤を加え、細かい霧状にして流れ落ちない程度に薬剤をかけるようにしましょう。また、雨の後には水たまりなどがないように排水を良くしましょう。



ネギべと病（全農 提供）



ネギさび病（全農 提供）

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC（タック）までご連絡ください。